

【実践報告】

学部を超えて集い，議論する高年次教養セミナー

2022年度を振り返る

清島 絵利子

岐阜大学教育推進・学生支援機構

要旨

本報告は，学部の3～4年生を対象とした全学共通教育の岐阜学科目「高年次教養セミナー」の2022年度の開講状況を振り返ったものである。毎回，様々なテーマのもと，学部を超えた学生が各自の専門的見地により議論を重ね，教養を深めていくことを目的として開講し，5年目を迎えた。2021年度は10名が受講していたが，2022年度は1名の受講に戻ってしまった。2023年度からは名古屋大学との連携開設科目になる。名古屋大学の学生とはオンライン上の交流となるが，互いに切磋琢磨し，社会に出る前に自身の基盤となる教養を深められる機会を提供していきたい。

キーワード：高年次，教養教育，学部混成型セミナー，異分野からの学び，
学生と教職員の交流

1. はじめに

高年次教養セミナー（以後，本セミナー）は，2022年度で5年目を迎えた。2021年度までは複合領域科目での開講であったが，2022年からは岐阜学科目での開講となった。会場は柳戸キャンパス，講義時間も15時から17時15分で実施した。2019年度末までのように，教員と学生の講義後の交流という機会は失われたが，キャンパス間の移動や交通費等の負担がなくなり，講義の開講や聴講へのハードルが若干減少したように感じている。

2. 2022年度の概要

先述のように，2022年度も，引き続き柳戸キャンパスでの実施となった。今年度も，文理系問わず個性豊かな先生方に非常に興味深く，魅力的な講義を開講していただけるこ

学部を超えて集い、議論する高年次教養セミナー

とになった。2022年度も、表1のように、様々な専門分野における10名の先生方が快く講義を引き受けてくださったおかげで、無事、開講に至ることができた。表1では、担当していただいた講師の職名および敬称は省略する。

表1 2022年度 講師氏名・所属部局・テーマ一覧表

開催回	講義年月日	講師氏名	所属部局	テーマ
第1回	2022.04.15	横山 剛	高等研究院	インド仏教と存在論
第2回	2022.05.13	福井 博一	岐阜大学	世界を繋ぐバラの魅力
第3回	2022.06.24	フォン フラクシュタイン アレクサンドラ	地域科学部 地域文化学科 地域文化講座	児童書からドイツの政治を少し知る
第4回	2022.07.08	高橋 周平	工学部 機械工学科 機械コース	飛行機はどこまで速くなるのか？
第5回	2022.07.29	大矢 豊	工学部 化学・生命工学科 物質科学コース	組成が一定ではない酸化物と酸化物半導体
第1回	2022.10.07	能島 暢呂	工学部 社会基盤工学科 防災コース	地震に関する情報をどう活かすか？
第2回	2022.11.18	熊谷 佳代	教育学部 保健体育講座	Yogaが未来を左右する!?
第3回	2022.12.16	大宮 康一	地域協学センター	アイスランド語から言葉を見る
第4回	2022.12.23	海老原 章郎	応用生物科学部 応用生命科学課程 分子生命科学コース	酵素から知る自分の体の仕組み
第5回	2023.01.20	柳瀬 笑子	応用生物科学部 応用生命科学課程 分子生命科学コース	ポリフェノールを化学から読み解く

2022年度も前学期と後学期に図1のポスターを作成し、各学部・学環事務室前や全学共通教育棟玄関前および廊下に掲示をした。また、教育推進・学生支援機構のFacebookや教養教育NEWSで宣伝をおこなうなど、学生への周知を図った。



図1 2022年度高年次教養セミナーI・IIのポスター

3. 1 2022年度前学期を振り返る

2022年前学期は、受講登録者数が1名（内訳：工学部4年生1名）であった。昨年度は開講4年目にして初めて受講生が10名となったが、今年度も例年並みの受講者数となった。しかし今回、受講登録をした学生は、1年生の時に生協等に貼ってあるポスターを見て本セミナーの受講を希望していたが、高年次生（3～4年生）ではなかったため、3年間待って、ようやく受講できたと話していた。筆者が前任の先生からコーディネーターを引き継いで3年目になるが、これまでの受講生は自分の専門以外の学問を学ぶことに意欲的な学生が多い。そこで、2022年度前学期第1回～5回の授業を振り返る。ここでは、担当していただいた講師の所属は省略する。

①第1回（2022.04.15）横山剛先生「インド仏教と存在論」

横山剛先生は、元々は理学部で地球物理を専攻されていたそうだが、哲学への興味から文学部に入学し直し、現在は仏教学（インド仏教の教理研究）を専門にされているという。講義ではインド仏教の概観や存在論、法の体系など詳細に説明していただいた。



図2 第1回 横山先生の講義風景

②第2回（2021.05.13）福井博一先生「世界を繋ぐバラの魅力」

福井博一先生には、現代バラ（Modern Roses）は1800年前後にヨーロッパと中国の古代バラが融合して産まれたものであるというお話から始まり、バラの育種や香りの歴史、花色や多様化の歴史などを多くの資料や写真を踏まえて説明していただいた。現在、私たちが手にするバラの花は、ヨーロッパ起源ではなく中国が起源とのことである。



図3 第2回 福井先生の講義風景

③第3回（2022.06.24）フォン フラクシュタイン アレクサンドラ先生「児童書からドイツの政治を少し知る」

フォン フラクシュタイン アレクサンドラ先生には、ドイツの児童書（絵本）の読解と解説を通じて、ナチスドイツの政治について教えていただいた。講義開始時には、かわいい動物が描かれた絵本が提示され、「これは何について書かれたものだと思いますか？」と問いかけられた。絵を凝視すると、ある記号と色使いの特徴に気づき、ナチスドイツの啓蒙書であることが分かった。ドイツでは幼少時から絵本を通じて歴史教育が行われており、日本での歴史教育を考えるよい機会となった。

④第4回（2022.07.08）高橋周平先生「飛行機はどこまで速くなるのか？」

高橋周平先生には、飛行機の歴史や速度の概説から始まり、航空機開発やエンジンについて詳細を解説していただいた。今回は、1年前に本セミナーを受講していた大学院生の聴講もあった。印象的だったのは、現在の技術により飛行機の速度を速めることは可能だが経営が成立しないということであった。また、エンジンは、進む速度と排気速度が同じになる一番効率がよいというお話であった。



図4 第4回 高橋先生の講義風景

⑤第5回（2022.07.29）大矢豊先生「組成が一定ではない酸化物と酸化半導体」

大矢豊先生には，化合物の組成について復習を行ったのち，点欠陥，線欠陥，面欠陥などの解説をしていただいた。



図5 第5回 大矢先生の講義風景

3. 2 2022年度後学期を振り返る

2022年後学期は，前学期と同様，受講登録者数が1名（内訳：工学部4年生1名）であった。この学生は，前学期から1年間を通じて受講した。

①第1回（2022.10.07）能島暢呂先生「地震に関する情報をどう活かすか？」

能島暢呂先生には、地震に関する情報の流れから始まり、地震はなぜ起こるのか？どこでどんな地震が起こるのか？いつ発生するのか？地震の発生確率など、多くの図や写真を用いながら詳細に解説していただいた。岐阜県の地震にも触れられ、岐阜県では最近50年間で震度5を記録しておらず地震が少ないように感じられるが、震度5以上の地震がいつ起きても不思議ではないとのことであった。講義は「一人ひとりの備えがいちばん大事。一人の百歩より、百人の一步」ということばで締めくくられ、普段から災害を正しく知り、正しく恐れ、正しく備えておくことの重要性を認識させられた。



図6 第1回 能島先生の講義風景

②第2回（2022.11.18）熊谷佳代先生「Yogaが未来を左右する!？」

熊谷佳代先生には、呼吸法の講義のあと、実際にYogaを体験させていただいた。当日は、本学の教職員も複数名参加があった。昨今はコロナ禍によるマスク生活のため、呼吸が浅くなり、頭の熱が上がるなどのデメリットが生じているが、口輪筋を鍛えるにっこり呼吸、複式呼吸、36（サンロク）呼吸を意識して動くことの重要性も教えていただいた。Yogaでは、呼吸法を意識して普段動かすことのない筋肉を動かすため、数十分後には筋肉痛に見舞われたが、自然とリラックスすることができていた。



図7 第2回 熊谷先生の講義風景

③第3回 (2022. 12. 16) 大宮康一先生「アイスランド語から言葉を見る」

大宮康一先生には、アイスランドの概要から歴史や生活様式、文化、言語などを図や写真をもとに詳細に教えていただいたことにより、以前より身近な国に感じられるようになった。また、言語はコミュニケーションのツールで全て同等であり優劣はないということやいろいろな言語をよく知ることで日本語もよく見えてくる、外国語を習得するためには、文法（ルール）を学ぶことが重要であるという話が印象的であった。最後に、アイスランドの黒色の飴（リコリス）をいただき、アイスランドの食文化を体験した。



図8 第3回 大宮先生の講義風景

④第4回（2022.12.23）海老原章郎先生「酵素から知る自分の体の仕組み」

海老原章郎先生には、学生がその場でブドウ糖を尿糖試験紙で検査するなどの実習を交えながら、酵素について教えていただいた。この日は、3年次に本セミナーを受講していた大学院生の参加もあった。なかでも印象的だったのは、プロレニン受容体が膵臓がんの細胞に対して増殖抑制を示すお話であった。



図9 第4回 海老原先生の講義風景

⑤第5回（2023.01.20）柳瀬笑子先生「植物ポリフェノールを化学から読み解く」

柳瀬笑子先生には、植物ポリフェノールについて、かみ砕いて分かりやすく教えていただいた。ポリフェノールは健康によいと言われており、2024年末には市場規模も13億3,000万USドルになるだろうとのことである。しかし、健康効果については分かっていない部分が多いということであった。



図10 第5回 柳瀬先生の講義風景

4. まとめと今後の展望

本セミナーは、2022年度に開講5年目を迎えた。コーディネーター1人では5年間継続することは不可能であった。ひとえに、高年次の学生に専門分野以外の教養を身に付ける機会を提供することへの重要性を実感されている多くの先生方が、講義を引き受けてくださっている賜物である。前学期と後学期の年2回開講のため、各学部や学環の事務室付近や生協前などへのポスター掲示をはじめ、教養教育NEWSやFacebookでの広報活動を行っているが、受講者数は伸び悩んでいる。2021年度には受講者が10名程度となり、ようやく講師を囲んで講義ができる体制になったが、2022年度は例年並みの受講者数に戻ってしまった。2020年度に筆者がコーディネーターとなってからも、受講者数は少ないが、学生と講師とのディスカッションの様子や表情を見ている限り、自ら積極的に行動し、専門分野以外の教養を身に付けることに興味がある学習意欲の高い学生が多い。また、在学中に身に付けた幅広い教養が基盤となり、社会人となった時に自分自身の助けになることにも気づいている。毎年、本セミナーの講師の方々には、専門的な内容をかみ砕き、素人にも理解できるように分かりやすく講義をしてくださっている。前学期と後学期で10回、オムニバス形式で様々な教養を身に付けながら、講師と自由に議論が交わせる講義は、本セミナーの大きな特徴で、メリットであるとも言える。

2023年度から、本セミナーは名古屋大学との連携開設科目になる。名古屋大学の学生とはオンラインでつながり、議論を交わしていくことになる。受講者数は未定だが、両大学の学生がともに刺激を受けて、切磋琢磨できる機会になることを願っている。

【参考文献】

清島絵利子（2023）「学部を超えて集い、議論する高年次教養セミナー 2021年度を振り返る」岐阜大学教育推進・学生支援機構年報第8号，pp. 35-43 岐阜大学教育推進・学生支援機構